

エゴノキの花冠裂片数と雄しべ数について

吉田 三夫*

1. はじめに

生物クラブや植物観察会において、これまで何度か、エゴノキ（双子葉，合弁花，エゴノキ科）の花冠裂片数及び雄しべ数にバラツキが見られるなどと指摘されてきた。

そこで、エゴノキの花冠裂片数とおしべ数を、現象的に調べてみることにした。

2. 調査方法

- ① 生田緑地公園内（31ヘクタール）に生育するエゴノキ6株を任意に選び、1株から35花ずつ任意に採集した。
- ② 6株×35花、合計210花冠の裂片数と雄しべ数を簡単な調査票に記入した。

3. 結果

調査票を整理して、裂片数と雄しべ数の相関表（表1）を作成した。全花冠数を占める裂片数とおしべ数の各々割合（図1）、同様に、全花冠とそれらの組合せの割合（図2）を求めてみた。

表1から、210花冠のうち101花冠が裂片数5，雄しべ数10で、裂片数平均5.2，雄しべ数平均9.9であることがわかる。また、この組合せは図2では、全花冠数の48%を示している。

図1から、全花冠数を占める裂片数5，雄しべ数10は共に約60%となっている。次に裂片数6が27.1%，雄しべ数11が15.2%となっていて、図2でのこの組合せは11.4%となって表われている。裂片数6は割に高率である。

表1

おしべ数 裂片数	7	8	9	10	11	12	13	計	おしべ平均
3	1							1	7.0
4	1	12	7	2				22	8.5
5	2	2	11	101	8	1	1	126	9.9
6				21	24	12		57	10.8
7				1		2	1	4	11.8
計	4	14	18	125	32	15	2	210	
裂片数平均	4.3	4.1	4.6	5.2	5.8	6.1	6		

図1

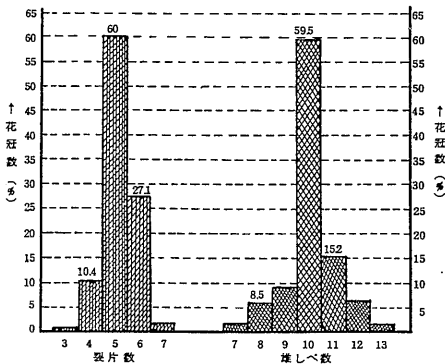


図2

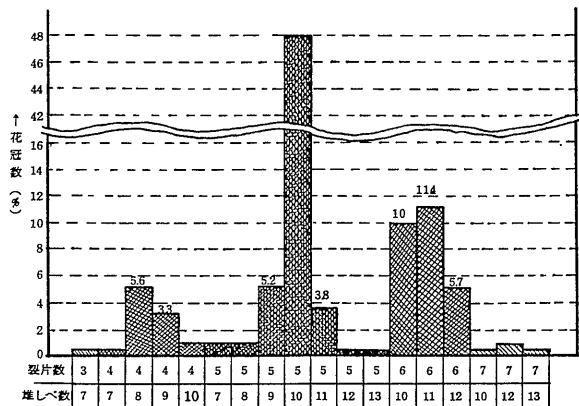


図2では、裂片数4, 5, 6が各々グループを作っているが、パーセントから見れば、裂片数5, 6, 4の順になる。特に5, 次に6が目立つ。

裂片数は3~7の5種類、雄しべ数は7~13の7種類であり、裂片数5は雄しべ数の全てと組んでいる。それだけ、雄しべ数との組合せにおいて、裂片数5は変化に富んでいる。この点から、裂片数6を見ると裂片数5の次に高率でありながら、雄しべ数との組合せは少ない。

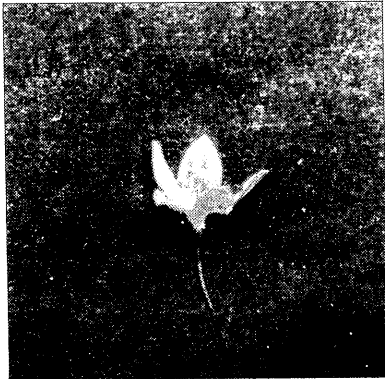
また、裂片数5は全ての雄しべ数と組んではいるが、裂片数4における雄しべ数、裂片数6における雄しべ数、裂片数7における雄しべ数の各々を比較してみると、裂片数が増加するにつれて、雄しべ数も増加する傾向が見られる。このことは、表1からもおおよその見当がつく。裂片数と雄しべ数の相関係数を求めた所、 $r=0.7$ ($r=1$ で完全相関) という数値を得た。この調査では、裂片数と雄しべ数は割と相関関係があることがわかった。

確かに、エゴノキの花冠裂片数及び雄しべ数には、バラツキが多いことが明らかになった。が、裂片数5, 雄しべ数10が約50%を占めている。裂片数8とか9もあるということだが、今回の調査では見られなく、雄しべ数が気になるところで、今回の調査結果から、きっと多い様に思う。

調査中に、雄しべの変形、雄しべの先が小さな花びらの形をしているものを見た。また、裂片の中には、他の裂片より小さくほっそりした裂片が見られた。

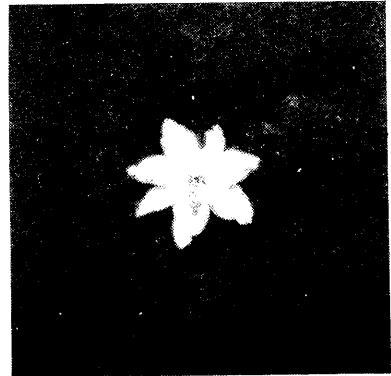
サトザクラ、ヤエヤマブキ(離弁花)などの八重咲きは、雄しべの花弁化が定説になっている。

写真1



オシベの変形
(中央裂片内の弓形のもの)

写真2



小さくほっそりした1裂片